

はじめに

高崎市は、古くから交通の要衝として栄え、全国有数の交流拠点都市として発展を続けてきました。近年では、首都圏と北陸・上信越を結ぶ中心都市として、その存在感をさらに高めています。

本市は、これまでも土地区画整理事業や市街地再開発事業などの都市計画事業の施行により、都市基盤の整備と土地の高度化を図ってきましたが、さらに選ばれるまちとなるため、まちの活性化を目的とした様々なプロジェクトに取り組んでいます。

群馬地域の「堤ヶ岡飛行場跡地」においては、デジタル技術を活用した最先端のスマートシティを目指す取組を始めたほか、高崎駅東口の栄町地区では、市街地再開発事業の施行により、土地の高度利用を図り、商業、業務、公益、住宅等の複合ビルの整備を進めます。さらに、中心市街地を流れる烏川の左岸エリアでは、かわまちづくり整備事業により、水辺空間を生かした賑わいの創出とうるおいあるまちづくりを進めます。

また、北関東有数のターミナル駅である JR 高崎駅は、1 日あたりの乗降数が6万人を超え、高崎アリーナや高崎芸術劇場、G メッセ群馬などの集客施設と相乗効果を発揮して中心市街地に賑わいをもたらしています。一方で、高速道路をはじめとした幹線道路網の整備は、中心市街地のみでなく、市全体に活力を与え、地域間交流や産業、経済活動の活発化に寄与しています。特に、全国有数の利用台数を誇る高崎玉村スマートインターチェンジでは、自動車交通の玄関口としてのポテンシャルを生かし、隣接地にパーク型商業施設の整備を進め、本市産の農産物などのブランド力向上を図ります。

新しい都市計画マスタープランにおいては、こうした現状を踏まえつつ、少子高齢化・人口減少社会を見据えたコンパクトシティの考え方も取り込み、「人・もの・情報が集積し、たくましく豊かに発展を続ける創造都市」を将来の都市像として掲げ、市民生活の質の向上に貢献する「新しい高崎」のまちづくりを進め、企業の誘致や定住地として選ばれ続けるまちの実現を目指してまいります。

令和7年（2025年）3月

高崎市長 **富岡賢治**